

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 6 報
千葉県農林水産部
令和元年7月25日

いずれの品種も収穫はやや遅れる見込み 「ふさおとめ」の成熟期は8月14日頃からと予測 収穫に向けた管理を行いましょう

[生育概況]

7月も低温、寡照が続いたため、全品種とも生育が遅れ、平年より出穂が3～4日程度遅くなっています。成熟期は4月20日植えの「ふさおとめ」が8月14日頃から、「ふさこがね」は8月19日頃から、「コシヒカリ」は8月26日頃からと予測されます。また、「コシヒカリ」は、出穂がバラつく場合があるので、成熟期の判定には注意が必要です。なお、地域によっては、葉いもちや斑点米カメムシ類の発生がみられるため、必要に応じて防除を行いましょう。

表1 品種別の生育進度と成熟期の予測

品種	植付時期	出穂期の 平年比較	成熟期予測			
			県北 (香取市)	九十九里 (茂原市)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)
ふさおとめ	4月20日	やや遅	8月20日	8月15日	8月15日	8月14日
ふさこがね	4月20日	やや遅	8月25日	8月21日	8月20日	8月19日
コシヒカリ	4月20日	やや遅	9月2日	8月27日	8月27日	8月26日
	5月1日	やや遅	9月9日	9月5日	9月5日	9月4日
	5月10日	やや遅	9月10日頃～			
アキヒカリ (飼料用米)	5月15日	—	9月8日頃～			
夢あおば (飼料用米)	5月15日	—	9月22日頃～			

※成熟期予測は、水稻作柄安定対策調査ほの調査結果から、各品種の出穂期から成熟期の標準的な日数を加えて予測。飼料用米は栽培事例からの予測。

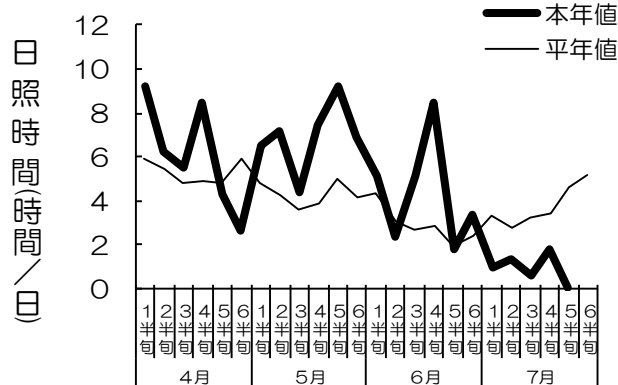
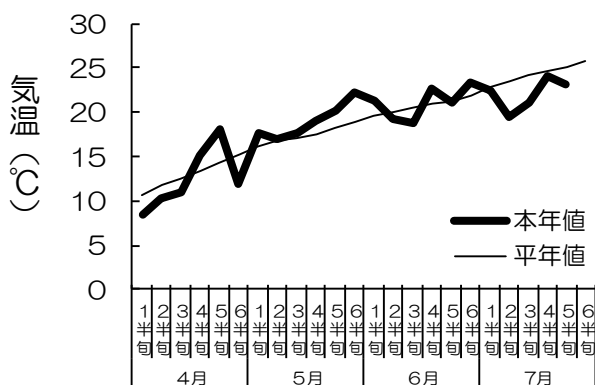


図1 日平均気温の推移 (アメダス、佐倉)

図2 日照時間の推移 (アメダス、佐倉)

[これからの管理のポイント]

■ いもち病の防除（葉いもちから穂いもちへの伝染防止）

7月以降も、降雨が続いており感染しやすい状況が続いています。止葉などの上位葉に病斑が多数見られた場合は、出穂前に防除して穂に感染しないようにしましょう。

表2 いもち病の主な防除薬剤

薬剤名	使用量又は希釈倍数	使用時期	使用回数	作用性
ダブルカットフロアブル	1,000 倍	穂揃期まで	2 回以内	予防・治療
ノンプラス粉剤DL	3~4kg/10a	収穫 7 日前まで	2 回以内	
ノンプラスフロアブル	1,000 倍			
ブラシン粉剤DL	3~4kg /10a	収穫 7 日前まで	2 回以内	
ブラシンフロアブル	1,000 倍			
カスミン液剤	1,000 倍	穂揃期まで	2 回以内	治療

■ 斑点米カメムシ類の防除

主食用米・飼料用米いずれも適期に防除します。穂揃期頃に共同防除を実施した地域においても、その後、出穂 7 日後から 14 日後頃の乳熟期に斑点米カメムシ類が多く見られる場合は、農薬の収穫前使用日数、使用回数に注意し、追加防除を行いましょう。

なお、防除にあたっては、周辺に養蜂場がある場合は粒剤の使用を検討する等、水田に飛翔した蜜蜂に影響がないよう農薬散布に留意しましょう。

■ 収穫に向けた水管理

登熟期の水不足は、乳白粒等の白未熟粒の発生による品質低下の原因となります。出穂 3 週間前から出穂 2 週間後までは湛水管理とし、その後は、出穂 25 日後までは間断かんがいにしましょう。落水は出穂後 25 日以降とし、田面を固め、コンバイン収穫に備えます。

また、排水不良田では、通常より早めの出穂 20 日後頃を目途に落水を開始しますが、本年は中干しが不十分なほ場が見られるため、ほ場毎に適正な管理をしましょう。

なお、農業用水は地区内で計画的に利用し、さらに、かけ流しや漏水を防止し、大切に使いましょう。

■ 適期収穫（良品質米の生産のため適期に収穫を）

早刈りは青未熟粒、刈り遅れでは胴割米等が発生し、品質・食味を低下させます。収穫期の目安は、出穂期（全穂数の40~50%が出穂した日）から「ふさおとめ」で33日前後、「ふさこがね」で37日前後、「コシヒカリ」で38日前後ですが（表1参照）、収穫期の判定は帯緑色歩合で判断しましょう。

帯緑色歩合は生育中庸な10株から主稈と思われる茎の穂を選び、不稈籾を除いて数えます（図3参照）。帯緑色歩合15%の時が収穫適期となります。「コシヒカリ」では出穂がバラつくで見込まれるため、帯緑色歩合の判定を確実にする必要があります。

また、収穫した籾を3時間以上炎天下に放置しておくと、品質が低下しますので、収穫後は速やかに乾燥しましょう。

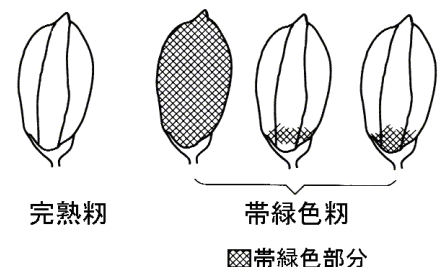


図3 帯緑色籾の見分け方
少しでも緑色の部分があれば、帯緑色籾として数えます。

■ 乾燥は丁寧に、仕上げ水分は適切に

高温による急速な乾燥や過乾燥等は胴割米を発生させ、品質・食味を低下させます。乾燥は平均毎時乾減率0.7～0.8%で行い、仕上げ水分は14.5～15.0%とします。

また、乾燥終了直後の粳の温度が高い状態で粳すりを行うと、肌ずれ米や胴割米を生じるので、十分に放冷し、温度を下げてから行いましょう。

■ 選別は 1.8mm 以上の網目

粒厚1.8mm以上の米は粗タンパク質含有率が低く、おいしいお米です。粒が小さい米の混入は粗タンパク含有率を高める原因になるので、選別の網目は1.8mm以上にしましょう。

また、大粒が特徴の「ふさのもち」については、1.9mm以上にしましょう。

■ 飼料用米について

○飼料用米の収穫適期

飼料用米の収穫適期は、「アキヒカリ」が出穂期から 35～40 日後、「夢あおば」が出穂期から 45 日後頃であり、帯緑色粳歩合は 15～20%を目安とします。

耐倒伏性に優れる「夢あおば」では、収穫適期以降、好天が続くと予想される場合は収穫を遅らせて立毛の状態乾燥（立毛乾燥）を進め、乾燥機の燃料コストの低減を図りましょう。

○飼料用米の乾燥・調製

飼料用米は主食用米と農産物検査規格が異なります。異物の混入などがなければふるい分けの必要もありません。また、食味及び外観品質を考慮する必要がないので、区分管理の場合は乾燥時の温度をやや高めに設定して乾燥効率を上げましょう。

※区分管理方式では、原則ふるい下米を含め全量飼料用米として出荷する必要があります。

■ 異品種混入の防止

異品種の混入を防止するため、品種切り替え時は、コンバイン、乾燥機、粳すり機等をていねいに清掃しましょう。

■ 生産履歴記帳

「売れる米づくり」に栽培管理の記録は不可欠です。集荷団体では、集荷に当たって「生産履歴」（栽培管理記録簿）の提出を求める場合があります。

「生産履歴」を記帳することは、自己の経営の点検などにも重要な役割を果たすので、正確な記帳に努めてください。

基本技術を励行し、信頼されるおいしいちばのお米を生産しましょう。

過去に掲載した内容、水稻栽培の基本情報、病害虫の発生予察情報等については、千葉県ホームページ「生育情報」を御覧ください。

(<https://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>)

飼料用米等の適正出荷について

一括管理方式と区分管理方式

- 一括管理方式**→主食用米と一括で栽培管理し、当初の契約数量を飼料用米等として出荷する方式。
- 区分管理方式**→ほ場一枚を単位として作付ほ場を特定し、そのほ場からの全収穫量を飼料用米等として出荷する方式。

区分管理方式で取り組む際の注意

① 収穫した米穀は全て飼料用米等として出荷してください。

契約数量よりも収穫量が多い場合も、原則、全量を飼料用米等として出荷しなければなりません。

② 契約数量に満たなくても、そのほ場で収穫した米穀のみを出荷してください。

契約数量よりも収穫量が少ない場合でも、特定したほ場で取れた米穀のみを飼料用米等として出荷し、他のほ場で取れた米穀を合わせて出荷しないでください。

③ ふるい下米は主食用米として出荷できません。

区分管理方式の場合、ふるい下米も用途限定米穀となります。ふるい下米を主食用として出荷した場合、食糧法遵守事項省令違反となります。

※契約数量＝出荷数量とはなりません。

※出荷数量は30kg単位ではありません。